

石岡市教育委員会 教育長賞

「一人一人の宝物」

林小学校 六年 藤浪 和花（ふじなみ わか）

私が社会を明るくするために大切だと考えることは、相手とおたがいに分かり合おうと努力することです。

私のクラスには、いろいろな性格の友達がいます。元気のよい子や、やさしい子、おもしろい子や、みんなのリーダーになってくれる子。

それぞれ仲よしの友達はいても、クラスの全員と仲のよい子はなかなかいません。

ふだんあまり話さなかったり、いっしょに遊ばないという理由だけで相手を苦手と決めつけてしまうことも多くあります。

でも、自分から勇気を出して話しかけてみると、その友達だけが持っている、いいなと思う所がたくさん見えてきます。

すると、今まで苦手だと思っていた友達が「素敵な友達」へと変わっていきます。

私は以前、いつもはあまり話さない友達から服そうをほめてもらったことがありました。その服は私のお気に入りのスカートだったので、とてもうれしかったことを覚えています。このように、いつもいっしょにいる友達以外のクラスメイトの中にも素敵なお友達を見つけることができました。

自分の勝手な思いこみで、相手を苦手と決めつける前に、おたがいのことを理解する、この行動をつみ重ねれば、相手の良さに気づき、いろいろな友達と仲良くすることができます。

しかし、無理やり相手のことを理解しようとしたら、自分の思いを伝えな

かったりすると、おたがいに理解し合うことが少しむずかしくなってしまうことがあるかもしれません。

このようなことを防ぐためには、相手のことばかりを知ろうとするのではなく、自分のことも相手に分かってもらえるように、コミュニケーションをとることが大切だと考えます。

例えば、あいさつしたり、相手の素敵だなと思う所を声に出して伝えてみることです。

私が友達にほめられてうれしかったように友達も、きっと笑顔になると思えます。

こうしたことから、私の考える「社会を明るくする運動」で大切なことは、おたがいに分かり合う努力をすることです。

みなさんも、相手を苦手と決めつけて、関わらないのではなく、相手とあたがいに分かり合う努力をして、一人の宝物を見つけていきましょう。

